

全国高校総体

ボクシングピン級 8強入りした飛龍の大木彪楽(中央)
＝宮崎県の宮崎市総合体育館



初の全国 圧倒的強さ

ボクシングピン級の太木(飛龍)は2回戦で関根(東京・駿台学園)に1回55秒RSC(レフェリーストップ)で下し、準々決勝に進んだ。1年ながら圧倒的な強さを見せた。開始早々、ジャブで探りながら左ボディーをタイミング良く決めてダウンを奪い、相手に8カウントを聞かせた。「これはいける」と攻撃の手を緩めず、試合再開とともに左右のボディーを連打。再びリングに沈めて試合続行を断念させた。下水流監督は「初めての全国でRSCで勝つのは難しい。良い勝ち方で次につながった」と評価した。次戦は甲斐(東福岡)とぶつかる。太木は「KOを狙いたいが、気負わずに勝つことだけをイメージして臨む」と気を引き締めた。(掛川支局・吉田史弥)

ボクシングピン級 大木(飛龍) 8強

ボクシング

ライト級3回戦敗退

日吉(伊東商)「左の拳」打ち込む

▽ピン級2回戦
大木彪楽 RSC 関根健太
(飛龍) 1回55秒 (東京・駿台学園)

▽ライト級3回戦
日吉蓮 伊東商
(茨城・水戸) 2回1分10秒
(水戸・桜ノ牧)

ライト級で初出場の水戸桜ノ牧に2回1分10秒RSC負け。目と表情は明るかった。左の拳でやりきった。なかつたが、「信じた



ライト級3回戦 果敢に攻め続けた伊東商の日吉蓮
＝宮崎県の宮崎市総合体育館

「打ち込み続ける」と意気込んでリングに立った。序盤から相手に攻め込まれたが、仲間からの「ワンツー」の掛け声に後押しされ、自慢の左ストレートを果敢に打ち続けた。日吉は「誰よりも練習してきた。自分らしく戦えた」と誇り、高校最後の試合に悔いはなかった。